

December 2008

大阪大学図書館報

vol. 42 no. 2 通巻 165号

発行所 大阪大学附属図書館 2008年12月22日発行

〒560-0043 豊中市待兼山町1の4

e-mail: kohowg@library.osaka-u.ac.jp

特集

お役立ち情報
満載！💡

電子情報サービスって何それ？

そう思ったあなたは実は損をしているかもしれません。
それくらい知っているというあなたも、まだまだ知らないことがあるかもしれません。

💡 電子情報サービスとはデータベース、電子ジャーナルなどの電子化された学術情報コンテンツの総称です。これらのコンテンツは、調べ物をする、論文を探す、論文を入手する、といった場面に欠かすことができません。また、単純にインターネットを検索するだけでは手に入らない信頼性の高い情報が手に入るため、学習・研究に大変有効です。

今回の特集では主要な電子情報サービスを活用の場面に応じて紹介します。

電子情報サービスでこういったことができるのかを知りたくありませんか？

えっ、知りたくない？ まあ、そうおっしゃらずに次のページを開いてみてください！

CONTENTS

【特集】電子情報サービスって何それ？

- 電子情報サービスで何ができるのか？ …P. 2
- 事典・辞典・新聞コンテンツを利用しよう！ …P. 3
- 先行研究を調べよう！ …P. 4
- 主要文献データベース分野別一覧 …P. 5
- 実際に利用してみよう！ …P. 6
- 論文をカンタンに手に入れよう！ …P. 7
- その他の電子情報サービス …P. 8

大阪大学機関リポジトリ

祝

OUKA 1万件
突破記念

教員著作寄贈図書のご紹介 …P. 9

OUKA 1万件突破記念インタビュー 理学研究科数学専攻 藤木明教授 …P. 10

「わたしのおすすめ本」リレー連載 その5 …P. 12

電子情報サービスで何ができるのか？



電子情報サービス活用例



まず電子情報サービスを使ってどういうことができるのかをみてみましょう。
例えば、小林誠先生、益川敏英先生、南部陽一郎先生のノーベル賞受賞に興味がある場合、電子情報サービスを活用して以下のようなことができます。



「クォーク」や「CP 対称性」といった言葉の基本的な意味を調べたい



「Japan Knowledge」で百科事典類をまとめて検索できます

★ 詳しくは p. 3 を参照



ノーベル賞受賞がどんなふうに報道されたのか調べたい



「LexisNexis Academic」で海外の新聞・雑誌報道を調べられます
「聞蔵Ⅱ」で朝日新聞の記事を調べられます

★ 詳しくは p. 3 を参照



小林誠先生、益川敏英先生、南部陽一郎先生がどんな論文を書いているのか調べたい。「CP 対称性の破れ」に関する論文にどんなものがあるのか調べたい



文献データベースを利用することで研究者やキーワードに関する論文を調べられます

★ 詳しくは p. 4-5 を参照



その論文がどれくらい引用されているのか調べたい



「Web of Science」で論文の被引用情報を調べられます

★ 詳しくは p. 4 を参照



その論文を実際に読みたい



電子ジャーナルを利用することで簡単に論文を入手できます

★ 詳しくは p. 7 を参照



論文を読むために専門分野を含む英単語の意味を調べたい



「KOD」で専門分野を含む英和・和英辞典をまとめて検索できます

★ 詳しくは p. 3 を参照

上記の例は普段の学習や研究にも応用できます。
以下、もう少し具体的にどのような電子情報サービスがあるのか、どのような場面でそれらを活用できるのかを見ていきましょう。





事典・辞典・新聞コンテンツを利用しよう!



ここではレポート作成や語学学習に役立つ電子ツールを紹介します。

JapanKnowledge ★ 事典の活用

あるテーマや問題に関するレポートを作成するとき、関連する言葉の基本的な意味や背景などを確認することが必要になります。そういったことを調べるにあたって、事典が役に立ちます。事典はそれぞれの分野の専門家が様々な用語について簡潔に解説したものです。用語について調べることで、テーマや問題をより深く幅広く考える手がかりとすることもできます。

電子情報サービスの Japan Knowledge を利用することで、百科事典等の複数の冊子を電子化したものをまとめて検索することができます。通常のインターネット検索と比べて、**信頼性の高い複数の解説を比較検討できる**のが大きな特徴です。**調べごとの最初の一步に最適なツール**です。

その他にも電子情報サービスには経済学や教育学の専門分野の百科事典が含まれます。

* JapanKnowledge URL: <http://na.jkn21.com/>



JapanKnowledge 検索画面

KOD ★ 辞典の活用

KOD という英語学習用コンテンツを利用することで、十種類以上の英和・和英辞典をまとめて検索することができます。通常の辞典だけではなく、「**理化学英和辞典**」「**医学英和辞典**」等の専門分野に関する英和辞典も収録しているため、**英語の教科書・論文等を読むときにも活用**できます。

また、「**新編英和活用大辞典**」を利用することで英単語の自然な用例を確認できます。これは、例えば“library”という単語で検索して、その単語がどのような動詞や形容詞、前置詞等と結びついて使われるかを確認できるものです。**英文文の際に大変参考になります**。

辞典コンテンツとして、最大の国語辞典である「**日本国語大辞典**」を収録した**日国オンライン**などもあります。

* KOD URL: <http://kod.kenkyusha.co.jp/service/form.jsp>

* 日国オンライン URL: <http://nikkoku.jkn21.com/>



KOD 検索画面

LexisNexis Academic、聞蔵II ★ 新聞の活用

レポート等を作成するにあたって、テーマに関連する時代背景や社会状況を参照したい場合、新聞や雑誌の記事が重要な手がかりとなります。また、現在の社会問題について情報を集めたい場合にも役に立ちます。新聞や雑誌記事は膨大な量になるため、本格的に調べるのは非常に大変ですが、**電子版を利用することで簡単に検索することが可能です**。検索を利用することで、キーワードに関連する記事をまとめて読むことができます。

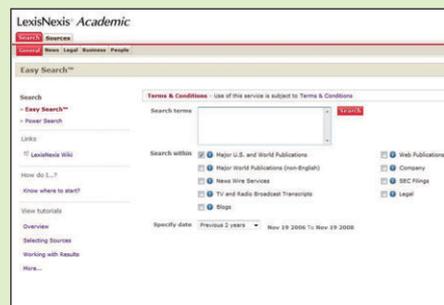
そのような新聞・雑誌記事の電子版として、**LexisNexis Academic** というコンテンツがあります。これは**海外の有名な新聞・雑誌等を収録**したもので、それらの記事情報をキーワードで検索できるようにしたものです。過去のもの、最新のものを共に含みます。

また、**朝日新聞の電子版**として**聞蔵II**というコンテンツがあります。こちらも過去・現在の記事をキーワードで検索して本文を読むことができるものです。

* LexisNexis Academic URL: <http://web.lexis-nexis.com/universe>

* 聞蔵II

URL: http://www.library.osaka-u.ac.jp/news/news2008/08kikuzo2visual_rjiyo.htm



LexisNexis Academic 検索画面



事典・辞典・新聞コンテンツの利用は大阪大学内の端末からのみになります(学外不可)。

詳しくはP.6をご参照ください。

先行研究を調べよう！ 文献データベースの活用



先行研究とは



先行研究とは、あるテーマについてすでに成された研究成果のことです。

論文を執筆するなどにあたっては、**研究の動向を把握するため、すでに成されたものと同じ研究をしないため、過去の研究成果を活用するために、先行研究を踏まえておく必要があります。**

そういった先行研究の調査においては、文献データベースの活用が非常に重要になります。

文献データベースとは



文献データベースとは、専門家によって作成された膨大な文献情報を収録し、それらの情報をキーワードやテーマによって検索できるようにしたものです。

先行研究を調査するには、まず**文献データベースを検索することによって、どのような論文が存在するか調べることが基本になります。**

ただし、一口に文献データベースといっても、いろいろなタイプのものがあります。例えば、日本語の論文だけを対象としたもの、世界の論文を対象としたもの。専門分野に限定するもの、限定しないもの。特殊な機能を備えたものなど、大阪大学で契約しているものだけでも様々なデータベースが存在します。それらの利用にあたっては、目的に応じて適切なものを選択する必要があります。

また、文献データベースを検索したからといって、全ての先行研究を完全に網羅できるわけではありません。検索方法が不正確である場合は、結果にもれが生じます。また、そもそもデータベースに収録されていない重要な研究が存在する可能性もあります。そのため、キーワードの変更等検索方法を工夫して何度も検索したり、論文に掲載される参考文献情報や紙媒体の索引資料を参照することも必要です。

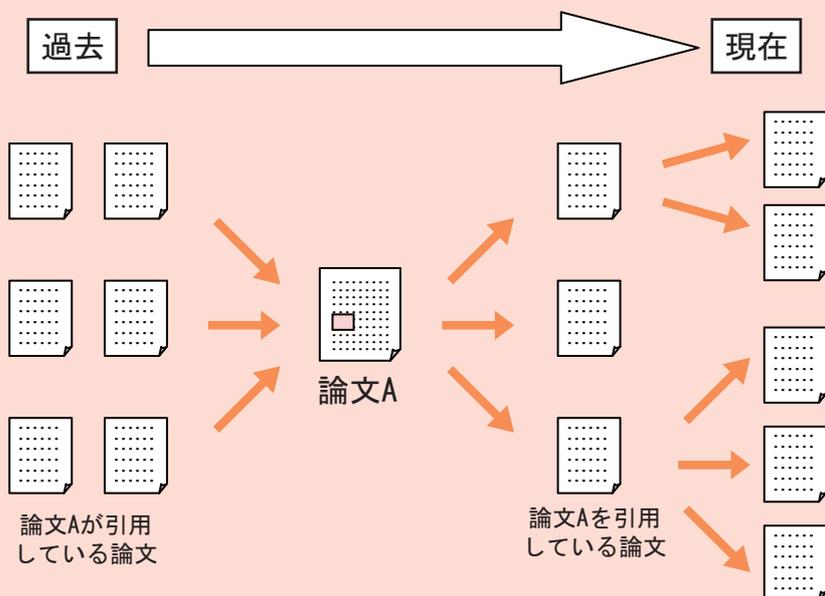
キーワードを考えるにあたっては、同じ単語のいいかえ、より広義・狭義の言葉を使うことで上手くいくことがあります。データベースの中には、「シソーラス」という、あるキーワードの同義語・広義語・狭義語や関連語等をまとめて検索できる辞書機能を持ったものがあります。**シソーラスに対応しているデータベースを利用する場合は、この機能を使って検索することをお勧めします。**

引用索引データベースとは

Web of Science というデータベースを利用することで、ある論文が引用している他の論文や、ある論文を引用している他の論文の情報を参照できます。例えば、小林・益川理論の論文がどのような先行研究を参照して書かれているか、また、小林・益川理論の論文の研究成果を参考にして書かれた論文にどのようなものがあるかを調べることができます。

論文の影響の大きさや関係性を調べたいとき、研究全体の流れを把握したいときに役に立ちます。

～Web of Scienceで調べられる研究の流れ～ (ただしすべての論文を収録しているわけではない)



主要文献データベース分野別一覧 (大阪大学契約分)

● 日本語論文を探す

 理工学分野	→ JDreamII (シソーラス対応)
 医学 歯学 薬学分野	→ 医学中央雑誌 (シソーラス対応)
 それ以外 (全般)	→ CiNii MAGAZINEPLUS



世界各国の論文を探す

 心理学分野	→ PsycINFO (シソーラス対応)
 文学・言語学分野	→ MLA International Bibliography (シソーラス対応)
 社会学分野	→ SocINDEX (シソーラス対応)
 経済学分野	→ Econlit
 法学分野	→ Wilson Index to Legal Periodicals & Books
 教育学分野	→ ERIC (シソーラス対応)
 化学分野	→ CrossFire SciFinder Scholar
 物理 電気電子 情報科学分野	→ INSPEC (シソーラス対応)
 医学分野	→ MEDLINE (シソーラス対応)
 看護学分野	→ CINAHL Plus (シソーラス対応)
 それ以外 (全般)	→ Scopus (自然科学・社会科学) Web of Science (引用索引データベース)

実際に利用してみよう!



ここでは実際にデータベース等を利用する際のアクセス方法を紹介します。

大阪大学のネットワークに接続したパソコンからアクセスできます

電子情報サービスは、どこからでも自由にアクセスできるわけではありません。各種のデータベースは、企業等のコンテンツ提供者と大学が契約することによって学生のみなさんに提供されているものです。基本的にはキャンパス内の大阪大学のネットワークに接続したパソコンからのみ、アクセスできることになっています。

- ex) 図書館内のパソコン (OPAC 端末等除く)
サイバーメディアセンターのパソコン
研究室等のパソコン



キャンパス内での利用は図書館HPが窓口です

大阪大学附属図書館
Osaka University Library

「データベース・タイトル一覧」をクリック!

電子ジャーナル

データベース

電子化コレクション

図書館 HP では大阪大学で契約しているデータベースリストを公開しています。さらにリンクをたどっていくと、事典・辞典・新聞コンテンツや文献データベース、その解説ページなどを見ることができます。
※一部、登録や専用ソフトが必要なものを除きます。

詳細表示や分野別の表示も可能です

クリックしてデータベースへ!

附属図書館ウェブページ
<http://www.library.osaka-u.ac.jp/>



学外のパソコンからも利用可能なコンテンツがあります!

一部の主要な電子情報サービスには、学外からアクセス可能なものもあります。

「データベース・タイトル一覧」で詳細表示をご覧ください。ここで、「学外利用可」となっているコンテンツは、大阪大学ポータルサイトにログインすることで学外の端末からも利用できます。

* 大阪大学ポータル
<https://portal.osaka-u.ac.jp/>

リストの表示を変える

タイトルリスト(簡略)

BOOKPLUS	CINAHL Plus	CINII
Gochrane Library	Cross Cultural	CrossFire
Derwent Innovations Index	D-Vision net	EconLit
Education	English Verse Drama	ERIO
The Guide to Computing Literature	INIS Database	INSPEC
JapanKnowledge	JDreamII	Journal Citation Reports, Science ed.
KOD	LexisNexis Academic	LexisNexis JP
LISTA	MAGAZINEPLUS	MEDLINE

データベース・タイトル一覧
<http://www.library.osaka-u.ac.jp/db/dblist.html>

データベースの利用方法やより詳しい使い方を知りたい方、具体的に論文を作成するために文献調査をしたい方は、お近くの図書館にご相談ください。また、データベース等の講習会も開催しています。講習会のお知らせは、図書館内の掲示や附属図書館ウェブページに掲載されます。

論文をカンタンに手に入れよう!

電子ジャーナルの活用



文献データベースで論文を探した後は、その論文を入手して読む必要があります。紙媒体の雑誌に掲載された論文をコピーする方法もありますが、電子ジャーナルを使えば簡単に手に入れることができます。

電子ジャーナルとは



雑誌の電子版です。パソコン上で見られるので紙媒体より手軽に利用できる他、多くの場合検索機能などもついています。自然科学系だけでなく、**人文・社会系も数多く含まれます。**

電子ジャーナルにはフリーで見られるものと、購読して見られるものがあります。大阪大学では数多くの電子ジャーナルを購読しており、学生や研究者は無料でそれを見ることができます。インターネットを検索して論文が読める場合、実は大学で購読しているという場合がよくあります。購読していないものの利用に関しては有料になります。

電子ジャーナルの利用

基本的には学内のネットワークに接続したパソコンからのみ利用できます。ただし、**大阪大学ポータルサイト**にログインすることで主要な電子ジャーナルを学外からも利用できます。

大学が購読している電子ジャーナルを確認したいときは、附属図書館ウェブページの**電子ジャーナル・タイトル一覧**を参照してください。電子ジャーナルのリストは雑誌名で検索できるほか、分野別に探すことも可能です。また、電子ジャーナルはOPACからも検索できます。

電子ジャーナルを利用するときは、**購読範囲**に注意してください。電子ジャーナルやOPACで探しているタイトルが表示されても読みたい論文の出版年が購読範囲外であれば利用できません。



大阪大学ポータル
<https://portal.osaka-u.ac.jp/>



電子ジャーナル・タイトル一覧
<http://sfx.usaco.co.jp/osaka/az>

文献データベースから電子ジャーナルへのリンク

文献データベースの検索結果にはこのようなボタンがつくことがあります。



このボタンをクリックすると**直接電子ジャーナルの該当論文にアクセス**できます。

また電子ジャーナルを利用できない場合もOPACの検索結果を表示して、図書館での紙媒体の所蔵を確認することができます。

- * すべての文献データベースの検索結果に表示されるわけではありません。
- * ボタンが表示されても本文を利用できるとは限りません。
- * このボタンのほかにも個々のデータベースの固有の機能として異なるボタンがつくことがあります。
- * 電子ジャーナルも紙媒体も利用できない場合、学外から複写物を取り寄せることが可能です。詳しくはお近くの図書館のカウンターでお尋ねください。

その他の電子情報サービス

💡 大阪大学には他にも役立つ電子情報サービスがあります。
ここではその一例として電子ブックと大阪大学学術情報庫 (OUKA) を紹介します。

電子ブックとは



学術書を中心に、辞書、百科事典、ハンドブック、専門ガイドなどのレファレンス書、各分野の専門書、などの出版物を電子化したものです。

冊子体と比較していつでも利用が可能、内容の検索が可能といった利点があります。

現在大阪大学で購入している電子ブックとしては、**東洋文庫・会社四季報** (共に JapanKnowledge 中のコンテンツ)、**Wiley Reference Works** などがあります。すべて附属図書館ウェブページの「データベース・タイトル一覧」から利用可能です。



電子ブックの新規導入について

近日中に新たに電子ブック (OCLC NetLibrary) を導入する予定です。学習・研究に大変便利なツールですのでぜひご利用ください。詳細が決まりましたら、附属図書館ウェブページに掲載いたします。

大阪大学学術情報庫 (OUKA)

とは

大阪大学学術情報庫 OUKA (Osaka University Knowledge Archive) とは、大阪大学の研究者の論文などを収集し、インターネットを通してフリーで公開するシステムです。このようなシステムを「機関リポジトリ」と呼び、大阪大学以外の大学でも多数導入されています。



大阪大学学術情報庫 OUKA
<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

大阪大学学術情報庫 (OUKA) でできること

大阪大学学術情報庫 (OUKA) には主に大阪大学で刊行された紀要・報告書に掲載された論文や、大阪大学で学位を授与された博士学位論文などが収録されています。それらをキーワードで検索できる他、本文まで読むことが可能です。

最近ではOMJ (Osaka Mathematical Journal)、OJM (Osaka Journal of Mathematics) 全号の登録が完了しました。また、博士学位論文の掲載数は864に上ります (2008年11月現在)。

大阪大学で博士号を取得された方は、OUKAで博士学位論文を電子化、公開することができますのでぜひご利用ください。登録のご希望は下記の連絡先までご連絡ください。



連絡先: ir-user@library.osaka-u.ac.jp

教員の皆様からのご寄贈を心よりお待ちしております。

各図書館に「教員著作コーナー」を設置し、本学教員の自著寄贈図書を集めて配架しております。ここでは、同コーナーに配置された本をご紹介します。



・・・ 教員著作寄贈図書のご紹介 2008. Jul. ~Nov. ...

寄贈者氏名 (所属) ※敬称略	書名	所蔵館(*)
池上日出夫 (名誉教授)	「アメリカ不服従の伝統 : 「明白な天命」と反戦」	箕
江尻宏泰 (名誉教授)	「絵で見る物質の究極 : 極微の世界で踊る素粒子(ブルーボックス)」	豊
	「クォーク・レプトン核の世界 : 物質の究極」	豊
大高順雄 (名誉教授)	「古フランス語と近代英語の慣用法」	豊
	「Roman d'Alexandre en prose : British Library (2nd ed.)」	豊
	「アレクサンドロス散文物語」	豊
荻野和己 (名誉教授)	「高温界面化学(上、下)」	吹
古賀勝郎 (名誉教授)	「北インドの諺」	箕
豊田政男 (名誉教授、工)	「工学者が見た文化財 : 日本の四季と美しいモノづくり」	豊, 生, 吹
西山敏之 (名誉教授)	「物理学の構築」	豊
山根壽己 (名誉教授)	「New frontiers of processing and engineering in advanced materials」	吹
市川明 (文)	「ドイツの笑い・日本の笑い : 東西の舞台を比較する」	豊
	「ブレヒト詩とソング(ブレヒトと音楽 : 1)」	豊, 箕
根岸一美 (文)	「ブルックナー(作曲家・人と作品シリーズ)」	豊
中村安秀 (人科)	「国際保健医療のお仕事 : あなたもチャレンジしてみませんか 改訂2版」	豊, 生, 吹
中山康雄 (人科)	「科学哲学入門 : 知の形而上学」	豊
矢元貴美 (外)	「クンディマン : 愛の詩集」	箕
稲葉章 (理)	「生命科学のための物理化学」	豊
小川哲生 (理)	「量子力学講義(新・数理科学ライブラリ : 物理学 : 6)」	豊
	「Optical properties of low-dimensional materials v.1,2」	豊
宮坂昌之 (医)	「からだをまもる免疫のふしぎ」	生
伊藤利道 (工)	「Control of semiconductor interfaces」	吹
福井希一 (工)	「ESP e-learning for global competency (Frontiers science series)」	豊, 生, 吹
生田美智子 (言語文化)	「外交儀礼から見た幕末日露文化交流史 : 描かれた相互イメージ・表象」	箕
上原順一 (言語文化)	「ロシア語中級教程 : 文法・作文」	箕
中前幸治 (情報科学)	「LSIテストハンドブック」	豊, 吹
小方厚 (産研)	「音律と音階の科学 : ドレミ…はどのようにして生まれたか(ブルーボックス)」	豊
HORIOKA CHARLES-YUJI (社研)	「世帯内分配と世代間移転の経済分析」	豊
池田光穂 (CSCD)	「実験室における社会実践の民族誌学的研究」	豊
西村ユミ (CSCD)	「Communication - Design : 異なる分野・文化・フィールド」	豊
小森淳子 (世界言語セ)	「ヨルバ語入門 1,2(世界を学ぶオリジナル語学教材シリーズ)」	箕
菊池誠 (サイバー)	「懐疑論者の事典(上、下)」	豊

所蔵館(*)豊 : 豊中本館、生 : 生命科学分館、吹 : 吹田分館、箕 : 箕面分館

詳細は教員著作コーナーのウェブページ (<http://www.library.osaka-u.ac.jp/kyoin/kyoin-kizo.htm>) へ

* OUKA 1 万件突破 記念インタビュー

理学研究科 数学専攻

藤木明教授

大阪大学の機関リポジトリである「学術情報庫 OUKA (Osaka University Knowledge Archive)」の登録コンテンツ総数が1万件を突破しました。これを記念して、主要コンテンツのひとつである Osaka Journal of Mathematics (以下 OJM) の編集委員長、藤木明先生にインタビューをさせていただきました。

OJM は、1949 年から続く歴史のある数学の雑誌です。当初は大阪大学、1964 年からは、大阪大学と大阪市立大学の理学部数学教室による発行となって現在に至っています。

以下、先生の研究室で伺ったお話です。

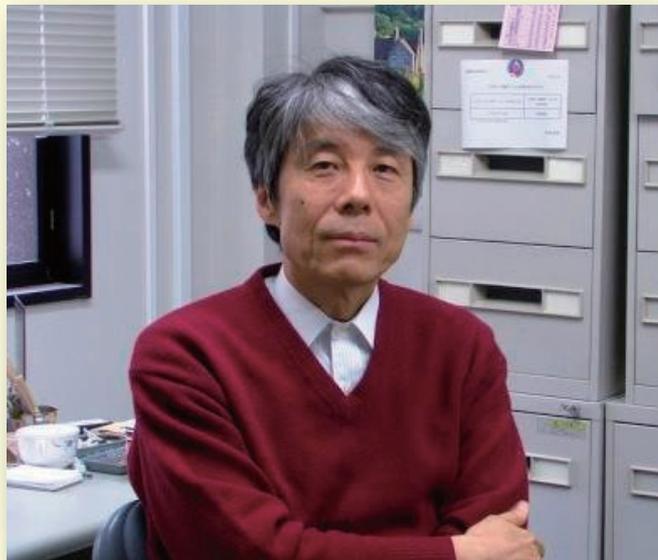
――先生は、いつから OJM の編集に携わっておられますか。

藤木先生 (以下藤) : 2000 年から編集委員、2005 年から編集長を担当しています。2000 年頃から、数学分野の雑誌が相次いで電子化に取り組みました。OJM も 2005 年から電子化を行い、Project Euclid ※1 で公開しています。

――数学の分野で、学術コミュニケーションに欠かせないものは何でしょうか。

藤 : 日本では、数学研究者は冊子を大事にする伝統があります。数学の分野では、他の (科学) 分野に比べて論文の寿命が長く、100 年前の論文でも参照されることがあります。論文が掲載されている冊子は重要な学術コミュニケーションのツールであり、手近な所にそろえておいて、必要な折にちょっと見に行けるという環境が大事です。

この数年で急激に電子ジャーナルが増え、「ちょっと見に行く」のが研究室のパソコンからできるようになりました。また、数学分野で最も有名なレビュー誌『Mathematical Reviews』を含むオンラインデータベース『MathSciNet』には参考文献の本文へのリンクがあり、レビューから直接論文を参照できます。大阪大学では数多くの電子ジャーナルタイトルを附属図書館で一括して



購入しているので便利です。

ただ、それで冊子が必要でなくなるわけではありません。電子ジャーナルは、必要な論文が特定されている場合には便利ですが、冊子のように「何か関係するものがないかな」と、ばらばらとめくって見てみることはできません。紙をなくすという議論には当分ならないでしょう。

――実際に多くの論文を手にとって、様々な研究に接することが重要なのですね。評価の高い雑誌にはどのようなものがあるのでしょうか。

藤 : 数学分野では “Mathematische Annalen”, “Annals of Mathematics” などは歴史のある雑誌です。また、比較的新しい “Inventiones Mathematicae” も評価の高い雑誌です。一般に雑誌の評価は今までの業績によって決まるといえるでしょう。優れた論文を過去に度々掲載している、査読 ※2 がしっかりしている、などの実績があり、すでに研究者からの信頼を得ていることが大事です。

外国雑誌の価格高騰は深刻な問題であると認識しています。ただし、例えば同分野でオープンアクセス ※3 の新雑誌を刊行しても、従来誌の代替手段とすることは難しいでしょう。オープンアクセスは重要なシステムですが、まだ評価の定まらない雑誌に発表場所を移すことは難しいのです。



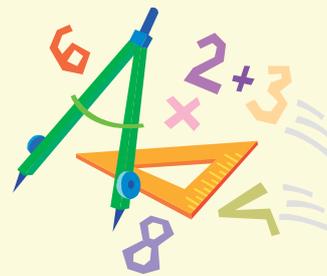
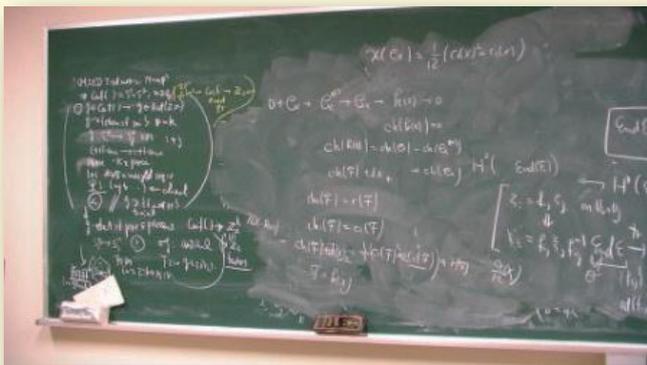
―― わたしたち図書館では「機関リポジトリ」をオープンアクセス実現の一手段として考えております。本日はOUKAの画面イメージ※4を印刷してお持ちしました。誌名で「Osaka Journal of Mathematics」を入れて検索すると、OJMの論文がヒットします。

最後に、附属図書館へのメッセージをお聞かせいただけますでしょうか。

藤：先ほど述べたように、研究者が論文などを「ちょっと見てみよう」と思ったときにすぐアクセスできるような環境を今後も整えていっていただきたいと思います。図書館と研究者のコミュニケーションや話し合いの機会も、もっと多く持つようにするとよいですね。

―― ありがとうございます。わたしたちも先生方から積極的にお話を伺い、先生方にとってより使いやすいサービスを実現させていきたいと考えています。ところで、お部屋の壁一面が大きな黒板になっていますね。

藤：そうです。数学専攻の研究室には皆黒板がありますよ。数式を書きながら議論をするわけです。やはり手を動かして（実際に式を書いて）考えていかなければ、本当に理解ができません。イタリアの研究者と、黒板を前にして1日中議論をしたこともあります。（笑）



※1…Cornell University Library が中心となって運営する数学・統計学分野の電子ジャーナルプラットフォーム。現在約 50 誌を収録。

※2…査読制度とは、査読者が投稿された論文を評価し、掲載を決定するシステム。公平性を維持するため、査読者は公開されない。

※3…インターネットを通じて学術雑誌（または掲載論文）を無料で公開すること。学術情報の流通格差をなくし、円滑な学術コミュニケーションを促進するための有効な手段と考えられる。

※4…OUKA トップページ：
<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

貴重なお話をたくさん伺うことができ、あっという間に時間が経ちました。藤木先生にはお忙しい中、お時間を割いていただき、ありがとうございます。またインタビューをお手配くださった OJM 編集委員会事務局の蒔油様にも、この場をお借りしてお礼申し上げます。

インタビューおよび記事作成：前田・土出
(附属図書館 学術情報整備室 電子コンテンツ担当)



平成 20 年度学術情報リテラシー教育担当者研修を開催しました

標記の研修が、10月22日（水）から10月24日（金）にかけての3日間、国立情報学研究所との共催で、本学コンベンションセンターを会場として開催されました。

本研修は、図書館等において学術情報リテラシー教育を企画・運営し、利用者に対して学術情報を入手する方法についての的確な指導ができるようになることを到達目標として行われ、本学附属図書館の職員 2 名を含めて、主に西日本の国公立大学の図書館職員 54 名が受講しました。

他大学における実践事例報告、グループ討議での結果報告、意見交換は、今後の図書館サービス改善に大いに役立つものでした。

研修の詳細は、国立情報学研究所の Web サイトでご覧いただけます。
<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/literacy/index.html>





わたしのおすすめ本

リレー連載 その5

『イェルサレムのアイヒマン—悪の陳腐さについての報告』

ハンナ・アーレント著 大久保和郎 訳 (みすず書房) 1969

岡辺裕美



豊中本館、
箕面分館に所蔵。

アドルフ・アイヒマン—ナチス親衛隊中佐として、ユダヤ人の強制収容所への移送を指揮し、ホロコーストに深く関与した人物である。戦後、イスラエルで裁かれ死刑に処された。本書『イェルサレムのアイヒマン—悪の陳腐さについての報告』は、ユダヤ系思想家、ハンナ・アーレントによるアイヒマン裁判の克明な報告であり、報告以上のものである。

ナチスの大罪人となるとどんな極悪人かと思うが、アーレントの見たアイヒマンは凡庸な小役人だ。しかし、彼が職を探してナチスに入党し、大きな組織の歯車に組み入れられたことによって、ホロコーストという大きな悲劇が引き起こされた。職務に就いたばかりの頃には、ユダヤ人を逃がしたいと考える良心を持ち合わせていた。しかし彼の良心は、上官たちがユダヤ人虐殺を決定することによって、そして聖職者さえ異議を唱えないことによって、消えていく。自分で善悪を判断することを放棄し、淡々と事務的にユダヤ人を強制収容所に移送するようになる。「上官の命令をただこなしていただけ。」そう彼は語る。悪はこのような陳腐な人間の弱さから生じてしまうのだ。

さて、この本が世に出たのは、戦後ユダヤのナチス糾弾が高まっていた時代だった。アーレントはナチスの悪の象徴と見なされていたアイヒマンの平凡さ、陳腐さを暴露したのである。さらに彼女は、この裁判が国際裁判所ではなくイェルサレムで行なわれ順当な手続きを踏んでいないことや、ユダヤ人の移送に協力したユダヤ人がいたことなど、ユダヤ人社会を批判した。ユダヤ人アーレントが、である。彼女が当時いかに同胞から糾弾されたかは想像に容易い。

アーレントが本当に公正にアイヒマンを評価できたかどうかはわからない。しかし、アーレントはユダヤ人としてのユダヤ人社会の怒りという大きなものにただ流されてアイヒマンを悪とすることを一旦は拒否した。アイヒマンがナチスに流されて自分で判断することをやめたこととは反対に、アーレントは立ち止まって自ら判断しようとしたのである。

私たちには、自分の属す社会や組織にただ流されるのではなく、自ら判断しようと立ち止まる勇氣はあるだろうか？

(おかべ・ひろみ 文学研究科博士前期課程1年、附属図書館)



第7回懐徳堂アーカイブ講座を開催しました

11月7日(金)、(財)懐徳堂記念会と大阪大学21世紀懐徳堂との共催により、附属図書館豊中本館において第7回懐徳堂アーカイブ講座を開催しました。

懐徳堂アーカイブ講座は、大阪大学の源流の一つとされる「懐徳堂」の魅力や、「懐徳堂文庫」の貴重資料の調査・研究成果の公開を通して紹介するため、(財)懐徳堂記念会が平成15年から開講している講座です。附属図書館豊中本館A棟6階の貴重図書室には、「懐徳堂」の貴重資料約3万7千点が「懐徳堂文庫」として所蔵されています。

今年度は、貴重資料の保存・修復、デジタルアーカイブ化の重要性についての講演とともに、平成17～18年に修復を終えた「懐徳堂幅」「中井竹山肖像画」などの第一級資料の展示・解説があり、学内外から47名の参加がありました。

